

互助会運営委員会主催 「第6回 がんばろう東北！ 復興応援ツアー」レポート

互助会運営委員会 副委員長 栗林 武史 (59期) ●Takeshi Kuribayashi

2017年9月23日・24日に、「第6回 がんばろう東北！復興応援ツアー」に参加してきました。今回は、原発事故によって甚大な被害を被った地域（飯舘村や二本松市）において、特に農業の復興状況を視察してきました。飯舘村は、2017年3月31日に（一部の地域を除いて）避難指示が解除され帰還可能になったとはいえ、除染作業の進んでいない山林があったり、除染作業で出た汚染土壌がそこかしこに野積みされていたりするなど、まだまだ復興の途上にあるという状況でした。

最初に、「飯舘村いちばん館」にて、いいたて雪っ娘かぼちゃプロジェクト協議会会長などを務めておられる、渡邊とみ子さんの講演をお聞きしました。渡邊さんは、震災以前から飯舘村オリジナルのじゃがいも（イータテベイク）やかぼちゃ（いいたて雪っ娘）を世に出すべく生産に取り組んでこられました。震災による原発事故のため飯舘村での生産を継

続できない状況に陥りました。それでも、渡邊さんは諦めず、避難先で畑を借りて種を撒き、収穫を続けてこられました。現在も、飯舘村オリジナルの野菜を世に出すべく、飯舘村の畑で実証栽培を続けておられます。渡邊さんの「撒かない種には芽も出ないし、実もならない。これからも新たに心に撒いた種を育ての親として立派に花を咲かせて、刈取りできるように大切に育てていきたい」という言葉がとても印象的でした。昼食は、実際に渡邊さんが育てた野菜や飯舘村特産の凍（し）み餅等をいただきました。初めて味わう料理ばかりでしたが、本当に美味しい料理でした。

午後からは、二本松市で農業を営むきぼうのたねカンパニー株式会社代表取締役の菅野瑞穂さんの講演をお聞きしました。菅野さんによれば、震災の際の原発事故によって土地が汚染され、人が町から離れ、地域の農業が一変してしまいましたが、種を撒き、土地を



「飯舘村いちばん館」にて

耕すことによって、土の力がよみがえり、農産物にも放射性物質が移行しないことが分かってきたとのことでした。私は、自然の力、大地の力のお話を聞いて、涙が出そうになりました。ほかにも、菅野さんがかかわっておられる地域復興のための取り組みについてもお話がありました。菅野さんは、震災から6年が経過して、「何を伝えていけば良いのか分からない」と悩むこともあるそうですが、「も



二本松市での見学

っともっと感情的なこと、それぞれの福島を伝えていくという使命感を持って、今後も情報発信を続けていきたい」とおっしゃっていました。その後、放射線測定器や菅野さんの水田を見学して、宿泊先のホテルに向かいました。

ホテルでは、二本松法律事務所の井上航先生から経験談をお聞きしました。井上先生が勤務しておられる福島浜通り地域においては、避難先から帰還しない方が大多数にのぼるため、地域が分断されていることや、自治体が抱える課題（固定資産税や所得税の減収、空き地や空き家の管理等）についてのお話がありました。原発事故の賠償問題に関しては、「賠償金の支払によって解決できない問題があるのではないか」といった問題意識が示され、弁護士として、経済的支援以外の支援の必要性を感じておられるとのことでした。井上先生の「弁護士会が、震災復興に継続的な関心を持ち、国や自治体に対して、福祉分野を含む総合的な復興支援策を積極的に提案してほしい」という言葉から、一見、震災復興が進んでいるように見えても、「地域の方々の現実的な生活にまでは様々な支援が行き届いていない」という現状を知ることができました。改めて、震災復興は道半ばであるということを確認させられました。

翌日は、直帰組、ゴルフ組、観光組に分かれて行動しました。私は、観光組でしたので、

観光について簡単に報告しますと、会津武家屋敷、さざえ堂、鶴ヶ城（会津城）を見学して、最後に末廣酒造（酒蔵の見学だけでなく、日本酒の試飲もしました）に立ち寄り帰京しました。さざえ堂のある飯盛山には、白虎隊の隊士墓があり、9月24日は慰霊祭や白虎隊剣舞の奉納が行われていました。観光組のメンバーは、報道関係者と思われる方々が、「戊辰戦争時に白虎隊が通った水路（戸ノ口堰洞穴）から、白虎隊の衣装を着た子どもたちが登場するイベントがある」と話をしているのを偶然耳にし、水路に駆けつけました。私は、貴重なシーンをカメラに収め、弁護士会に報告すべく、水路の出口に向けてカメラを構え、「今か！ 出るか！」と待機していました。が、実際に水路から登場したのが一般の観光客の方々（当然のことながら、誰一人、白虎隊の衣装は着ていない）だった時には、ひっくり返るかと思いました（完全な誤報でした）。今となっては、良い思い出です。

今回は、農業の復興状況の視察が中心でしたが、放射能汚染という目に見えない被害に立ち向かう方々の現状を知ることができ、改めて震災被害の甚大さを思い知らされました。井上先生の言葉にもあるように、震災を風化させることのないよう、継続的な関心をみながつことが肝要なのだと痛感させられる視察旅行でした。

■